

学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成

～ 数学的な思考力・表現力をはぐくむ指導法の工夫 ～



- 学校名 吉川市立三輪野江小学校
- 所在地 埼玉県吉川市大字加藤641番地
- 電話番号 048(982)2330
- E-mailアドレス yoshi3es@educet.plala.or.jp
- ホームページ <http://academic4.plala.or.jp/miwanoe/>

1 研究主題

「学ぶ意欲をもち、主体的に学習する児童の育成」

～ 数学的な思考力・表現力をはぐくむ指導法の工夫 ～

主題設定の理由

算数科を中心として、基礎・基本の確かな定着と児童の学習意欲を高める「できる、わかる授業」の展開のための指導法の工夫・改善により、わかる喜びやできた達成感をもたせていくことが、学びの継続と確かな学力の育成につながると考え、本主題を設定した。

2 目指す児童像と研究の視点

めざす児童像

- 算数の楽しさに気づき、意欲的に取り組む子
- 自分から課題を見つけ、見通しをもって考える子

- 視点① 児童が主体的に取り組めるような教育課程を工夫し、算数の学習が分かり、楽しさを実感でき、意欲的に学習できるようにする。
- 視点② 既習の内容をもとに課題を解決する手立てを明確に、算数的活動を充実し、児童が学習の見通しを立て、筋道を立てて考えられるようにする。
- 視点③ 児童の実態や学習状況を把握し、少人数指導を工夫することで個に応じた支援と評価を行い、基礎・基本を定着させ、児童が自分で課題を解決できるようにする。

3 研究の全体構想

教師の
授業力
指導力

スパイラルな教育課程
知識・技能の確かな定着のために



算数的活動

学習のどの場面でブロックをどのように動かせ、図や数直線等をどのように書かせるか明確にし、数学的な考え方をみつけさせる活動

指導案への
位置付け

少人数指導



学習内容や進捗状況に応じて、学習形態を工夫

TT、授業の途中から
チャレンジコースへ

確かな学力・生きる力

算数的思考力

4 研究の実践

(1) スパイラルによる教育課程

既習事項の指導案への明確な位置づけ

算数自己診断カードの作成と活用

問題番号	例題	答え	1回目	2回目
1	200÷40(17も書かれた)の計算	5あまり20	✓	✓
2	214÷43(14も書かれた)の計算	5あまり10	✓	✓
3	720÷24(18も書かれた)の計算	30あまり0	✓	✓
4	722÷24(18も書かれた)の計算	3あまり2	✓	✓
5	722÷23(18も書かれた)の計算	24	✓	✓
6	0.24÷3(小数のわり算の筆算)	0.08	✓	✓
7	0.24÷3(小数のわり算の筆算)	0.04	✓	✓

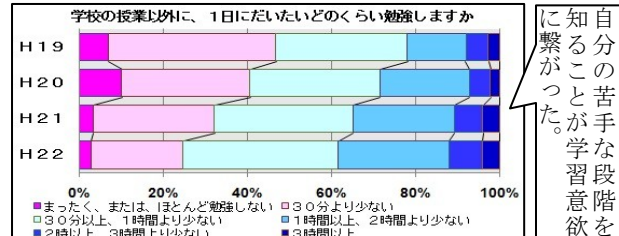
☆系統的なつながりや本時の数学的価値を明確にし、学習指導に生かした。

学習の振り返りができる算数コーナーの設置



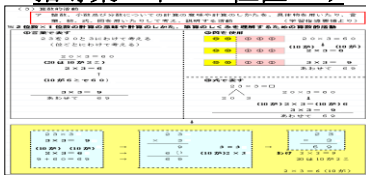
☆既習を振り返りながら学習を進めることで、スパイラルな学習への取組を進めた。

☆既習事項をスモールステップ化し、各段階に対応したミニ問題集に取り組んだ。既習に戻って問題を解いていくスパイラル学習により、基礎・基本の定着を図った。



(2) 算数的活動の充実

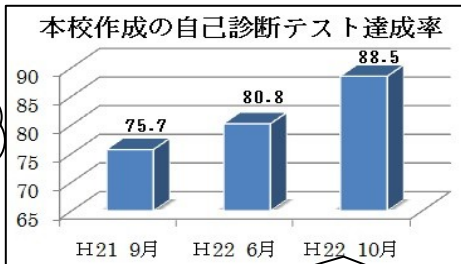
指導案の中への位置づけ



系統性をふまえた積み上げ



☆学年間や単元ごとの系統をふまえ、算数的活動の内容やその意図を明確にすることで、より効果的に算数的活動を行うように工夫した。



算数的活動の充実により、意味理解を深めたことや、スパイラルな教育課程によって、本校作成の自己診断テストの達成率が12.8ポイント伸びた。

(3) 少人数指導の充実

学習形態の工夫

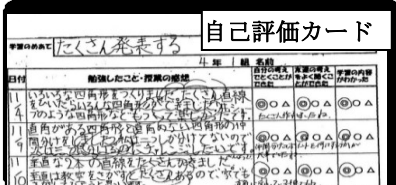
☆学習状況、単元の内容に応じて、少人数グループ・TT習熟度別グループ等の学習形態を、1単位時間や単元の途中でも柔軟に設定し充実を図った。

座席表の活用

☆本時の個々の到達目標、個別の手立てを明確にすることで、授業での個別の支援の充実を図った。

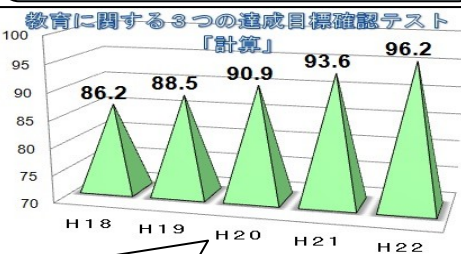
(4) 授業の評価

児童による授業の振り返り



教師による授業の反省

教師による授業の反省	授業チェックシート
1. 授業の意図	1. 授業の意図
2. 児童の関心	2. 児童の関心
3. 児童の理解	3. 児童の理解
4. 児童の発問	4. 児童の発問
5. 児童の回答	5. 児童の回答
6. 児童の発問	6. 児童の発問
7. 児童の回答	7. 児童の回答
8. 児童の発問	8. 児童の発問
9. 児童の回答	9. 児童の回答



毎年、達成率の向上が見られ、5年間で10ポイントの伸びが見られた。

5 研究の成果

- (1) 児童主体の課題解決学習を展開することで、算数の学習内容がわかる児童が9割に増えた。
- (2) スパイラルな教育課程の取組や、算数的活動の充実、個別支援の工夫により、筋道を立てて考えられる児童が増え、学習意欲と基礎学力の向上がみられた。
- (3) 一人一研究授業の取組により、新学習指導要領の趣旨をふまえ、スパイラルな教育課程、算数的活動の重視を中核に据えた授業改善を進めることができた。